

ふじがわ

12月号 昭和59年12月20日発行 No. 281

町のメモ

昭和59年12月1日現在
 人口 17,000人
 増減 -14人
 男 8,353人
 女 8,647人
 世帯数 4,395世帯
 面積 31.09km²

富士川町 総務課



注文に 太忙し
しめなわづくり

町のここの目標
「笑顔であいさつ明るい町に」

おもな内容

- 2～3ページ 町のわだい…議員定数は現行の18人で、収穫を祝う小車祭 四十九町で待望の公会堂完成、温水ため池工事 広報ディスカッション
- 4～5 ママさん記者が取材中「遺族会」社会教育の課題、図解交通安全、まちの指定文化財、マンガ
- 6～7 戸籍の窓、一里塚、お母さんの知恵袋、富士川短歌会
- 8

各区のここの目標

- 「隣近所の心のふれあいを大切にしていこう」 (上町)
- 「老いも若きも楽しい会話は家庭から」 (舟山町)
- 「おはようの笑顔で今日もがんばろう」 (清水町)
- 「災害を未然に防ぐ話し合い」 (大北町)

慎重審議の結果 議員定数は現行の十八人に決定

町議会（望月好勤議長・議員十八人）の議員定数が、当町にとって適正であるかどうかと、議長の諮問機関として、今年3月町議会として、今年3月町議会議員定数研究会（天野茂会長・会員八人）を設置し、研究を進めてきた結果、12月11日（火）開催された第九回町議会全員協議会で、同研究会から答申書が提出され、議題として慎重に審議した結果、賛成多数により答申どおり、町議会議員の定数は現行の十八人と決定されました。

その結果、公聴会では多数の役員のみなさんが、現状維持が妥当であるとの見解を示し、アンケート調査では、現状維持四十四・五割、減員五十二割、増員二・八割、わからない二・八割という結果を得ました。

このような意見などを総合的に検討した結果、同研究会では、「当町の議会議員定数は十八人が妥当である」との結論に達し、議長に答申しました。

なお、議員定数削減につき少数意見として、「将来的にも議員定数削減問題は、議会の行財政改革の一環として、継続的な取り組みが必要である」などの意見が答申書に付記されています。

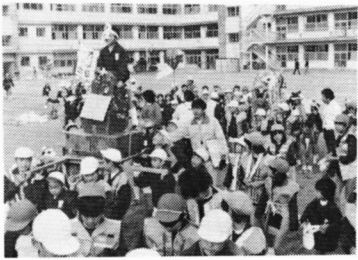
同答申書を今回の協議会に提出するまでに、同研究会では八回の会合、町民三百八十八人を対象としたアンケート調査、各種団体役員・富友会（議員OB）会員などの公聴会、町当局との意見交換など積極的に行ってきました。

町の

収穫を祝う小車祭が 元氣いっぱい

勤労学習として育て収穫した、サツマイモ約一千百鈴、もち米百三十鈴の収穫を全校児童で祝う、第二小学校の「小車祭」が、11月29日元氣いっぱいに行われました。

当日は、地区ごとのグループでつくったみこしをかっいで、地区の父母に披露したり、また、校庭でイモ焼き、投げもち、イモ引きゲームなどをして、楽しい一日をすごしました。



わだいの

富士川橋交差点で 交通量調査を実施 架け替え促進の資料に

国道一号富士川橋周辺の交通渋滞解消の根本的な解決策として、富士川橋架け替え運動を進めている「国道一号富士川橋架け替え促進期成同盟会」が、同橋架け替えの陳情資料とするため、12月6日午前七時から午後七時までの十二時間、同橋を中心とする交差点四ヶ所などで、車両別、方向別の交通量と渋滞に入った車が同橋を通行するまでの所要時間や距離など、細部にわたり調査しました。この調査には、期成同盟会を構成する富士川町・富士市の職員三十五人があたりました。

調査の結果、同交差点を通行する車両は、十二時間で一万九千五百四十七台ののぼり、このうち橋を通行した車両は一万六千四百九十四台で、四年前の台数と比較すると六百三十八台増

えていました。静岡方面から富士市・松野に向う車両は六千八百八十台で、七時三十分頃最高一渋滞し、交差点を通行するまで十分かかりました。富士市から松野・静岡に向う車両は七千七百九十七台で、午前十時頃最高二千二百台渋滞し、橋を通行するまで三十五分かかりました。松野方面から静岡・富士市に向う車両は四千四百五十一台で、午前七時二十分頃最高八百四十台渋滞しました。

調査の結果、同交差点の交通渋滞が通勤者などの足に大きな影響を与えていることが再認識されました。この結果をふまえ、国・県に対して架け替えの陳情を強力に進めていくことになりました。

創立三十周年記念式典 音楽会が盛大に 第二幼稚園で

11月18日（日）、町立第二幼稚園（遠藤裕子園長・園児百十二人）で、常葉町長はじめ約五十人の来賓、園児、父母が出席し、創立三十周年記念式典・音楽会などが盛大に行われました。

音楽会では、声楽家の斉藤定子さん（相生町）が、小さい秋みつけたなど十数曲を披露し、園児たちは大喜びでした。

その後、全園児が私の仲よしの友だちや好きな遊びを絵に描き、大きなかめに入れて、タイムカプセルとして園庭の築山に埋めました。このカプセルは二十年後開封されます。

その他、陶芸家の宮沢功さん（本通り一）指導による園児の焼き物展、町農業協同組合職員によるもちつき、記念誌の発行などが行われ、同園の発展に向けての新しい門出は一日中大にぎわいでした。

待望の公会堂が完成 四十九町で



月恒次郎委員長）が、今年7月から二千七百万円の工事費で建設を進めてきた「四十九公会堂」が完成し、11月18日落成式が行われ、完成を待ち望んでいた区民に披露されました。

同公会堂は、鉄骨造二階建約二百五平方メートルで、一階には108畳の和室、炊事場・物置が、また、二階には区の会合などが一度にできる約二百人収容の大広間がつけられ、施設全体に採光が、特に配慮されています。

粗大ゴミの処理希望強い 婦人会がアンケート調査実施

昭和55年からゴミ減量運動に取り組んでいる町婦人会（若月幸江会長・会員一千八百三十八人）が、町区長会の協力を得て5月町内全世帯の主婦を対象に粗大ゴミについて三項目のアンケート調査を実施しました。

この調査は、粗大ゴミの処理に苦慮している現状を把握し、対策を町当局に強力に要請していく資料とするために行われ、調査の結果、各家庭で処理に困っているものは、炊飯器、ジュータン、マット、洗濯機など二十品で、電気製品や綿製品の処理に特に苦慮していることがわかりましたので、町当局に対策の資料として提出されました。

温水のため池改修工事進む 五千七百万円・三年間の工期で



改修が進む温水ため池

七百万円で改修されることになり、取水口の改築などの工事に入りました。

この温水ため池は約三十年にわたり、南松野地区の水田約三十五畝に用水を供給してきましたが、堤の侵蝕や漏水などによって、池の老朽化が進む傾向にあるため、堤体の補強や防水工事などを行い、ため池としての機能を安全に保つようにと、また、地域住民の防災対策上の安全を確保することを目的として行われます。

今年度は一千五百万円で、堤体の一部補強や取水口の改築工事が行われていきます。

地震ひとロメモ 避難時の荷物は最少限に

関東大地震のときの東京の避難地の写真を見ると、どこから運び込まれたかと思うほど、大八車や家財道具がいっぱいにひしめきあい、その隙間に人間が詰まっている感じがします。

ある場所では、そこに市街地大火の火の粉がびっしりふりかかり、猛火に包まれていったと

ふだんは広い安全な空き地と違っていた場所が、非常時にはタキギの山同然に、燃えやすい形に変わってしまったわけですから、この話は避難地の消防水利の重要性、避難の荷物は最少限にする必要性をわれわれに教えています。



12月のテーマ

一年を
ふり返って

提言者 細貝秀樹さん(43)

(小池)

人間にとって

一番の財産「健康」

南町二 市川ひろ子さん(30)

昨年は何かと忙しいことが続き、今年こそは良い年であるように願って元旦の朝を迎えたものでした。今年も例年になく雪がよく降り寒い冬となりましたが、4月に末娘が小学校に入学した時には、ようやく遅い春がやってきたというような気がしたものです。

ところが、5月1日に夫の母親が突然倒れ、今日か明日の生命といわれた時には、さすがに皆動転しました。一緒にこそ暮らしてはいませんが、子どもも三人の世話は、ほとんどおぼあちゃんまかせだっただけに、

多い年でした。そして、「健康である」ということが、人間にとって一番の財産であると感じたのもこの年でした。

わが家のこの一年

上町 勝呂恵子さん(40)

今年も長男が成人を迎え、二人母が大学進学と喜びが重なり、しかし、主婦としては、厳しい年でもありました。と申しますのは、まず二男の入試にともなう諸経費、合格通知と同時に多額な入学金の納入、下宿の敷金や礼金と、アツという間に貯金通帳の数字は消えていってしまつたのです。仕送り額も家賃をふくめて十数万円が相場とか、サラリーマン家庭にとっては、かなりの負担となります。しかし、東京での十数万円の生活は、決して楽なものではないようです。食費、交通費、サークル活動の費用と計算通りにはいかなく、コレクトコールによる追加要求の電話はしばしばです。はじめは夜中に鳴る電話に何事か

と驚いたものでした。便りのないのは元気の証拠と申しますが、現在では、便りのないのは足りている証拠です。お金の催足の他にはベルは鳴りません。親として一番の心配は健康です。たとえお金の催足の電話でも元気のいい声が聞こえてくれば安心なのです。ともあれ、この一年やりくりにとまどいながらも、家族が健康で過すことができたことは幸いでした。

中学生になって

一中二年(小池) 大島朋子さん

私にとって、今年も中学校入学という記念すべき年でした。入学した時、私には何もかもがめずらしかつた。

教科によって、いろいろな先生が、入れ替わり立ち替わりこられること、部活動があり、かなり厳しいこと、生徒会活動が活発なこと、学校も先生もちょっとびりこわく見え、今までは全く別の世界にきたように感じられました。不安でした。

そんな私に、やっていく力を与えてくれたのは友だちでした。クラスの友だちの大半は、底ぬけに明るく、物事にこだわらない、何人かの友だちと心と心を

1月のテーマ
今年是我的年です(丑年)

富士川町に移り住んで六年半になりました。一年目に子どもが生まれ、育児に夢中で、育児に夢中で、過ごした四年間、かぜをひくと熱が出やすく病院通いが多く、心配の連続でしたが、五歳頃から体力がついたのか丈夫になり、ほっとしました。これからは自分の時間をと、つくる間もなく自治会、婦人



提言者 朝長芳子さん(35) (富士松野)

雑感

富士松野 望月福子さん(40)

家族そろって、健康で過せたことが何よりの一年でした。

子どもたちも、高校、中学生となり、一応のくぎりをつけて五年間のパート勤めにピリオドを打ち、本格的な共稼ぎとなつて働き出しました。

朝五時起きて私の一日がスタートしますが、アツという間に一日が終つてしまい、時間のたつのが非常に早いのに驚いています。そんな忙しい毎日の中で、原付バイクの免許にも挑戦してみました。この齡になって初めての経験でしたが、最近あまり変化のない生活の中で、この思い切りの挑戦は、私にとって大きな冒険でした。そして、二十五年ぶりの恩師との感激の再会。時の流れは感じられぬものの、昔と少しも変わらず、これもすべて健康のおかげであるとつくづく感じました。

投稿者へ

◎1月のテーマ
今年是我的年です
丑年

◎字数

400字づめ原稿用紙一枚以内

◎締切り日 1月8日(火)まで

◎投稿先・問合せ先 富士川町役場総務課

岩淵1番地

◎注意事項

匿名者の原稿は掲載しませんから、必ず住所・氏名・年齢を記して、締切り日までに投稿してください。

両親の

結婚三十周年を迎えて

上町 芦川敏郎さん(29)

私の父母は、今年五月に結婚三十周年を迎えました。五年前の結婚式時には、まだ私たちが子どもも社会に出たばかりで、気持ちに余裕がなかったせい何かもしなかったように思います。今回は、たった一泊でしたが、家族で伊豆へ旅行に出かけました。

今年には特に寒い日が続き、伊豆にもまだ雪が残っていた三月熱海の梅園へ行きました。数本の木に梅が咲いていただけで、

まだ蓄が多く、「一週間ぐらい早くすぎたかな」などと話しながら、その日は、稲取に宿をとりました。広々とした大浴場で疲れをほぐし、海の幸いっぱい夕食に舌鼓打ち、話の花を咲かせ、幸福な眠りにつき、翌日は、七滝を歩いて見て回りました。伊豆は身近にありますがかえって行く機会も少なく、初めて見る景色に感激しました。

このように短くても楽しく旅行ができたことを喜んでいました。三十年、家を建て、子どもを育て、時には病気や怪我で入院したり、決して楽な年ではなかったと思います。ようやく気持ちゆとりができ、親子五人、平穩無事に過すことのできたこの一年に感謝したいと思います。

念願の野田山に

のぼりました

四十九町 佐野昌代さん(7)

六歳、二歳、一歳と、男ばかりの子どものいますから、ごほん時はたいへんにぎやかです。(想像してみてください)下の二人が年子ですから、オモチヤの奪いあいや、ケンカもするようになって、わたしの声も大き

くなりがちです。病氣も前後してかかり、夕方になるともう一人がおかしくなるというようにめまぐるしい日々が続きます。でも、わたしも子どもも試練の一つだと思っています。

子どもが寝静まつてから、わたしの時間になるのですが、一日の疲れで、あれも、これもと思うばかりです。でも今年、家族で下の子どもをおんぶして念願の野田山にのぼりました。

富士川町にきて八年目になりましたが、地元の主人も十年ぶりだったそうです。わたしは運動不足のせいもあって、途中で休憩しましたが、次男は、ほとんど自力でのぼりきりました。帰りは、川坂コースをとりました。

富士山のながめは勿論のこと、富士川にいくつもの橋がかかっているのが印象的でした。また近いうちにのぼりたいと思っています。最近では、天気の良い日に、山のふもとまで散歩です。子どもたちも自然の中で、ドングリ・シイの実・おちばなどを拾い、宝ものように集めています。忙しい毎日の中にも、楽しみにしている子どもの成長をみるにつけ、わたしは頑張らなければと思つています。

来年は昭和60年。みんなが健康であつてほしいと願う今日この頃です。

ママさん記者が取材中



「富士川町遺族会」

木島、岩淵、中之郷上、中之郷下、南松野、北松野の六支部をおき、また、会の強化と発展をはかるために婦人部と青年部をおき、約二百七十人の会員で構成され、会員相互の扶助と親睦をはかることを目的として活動しています。

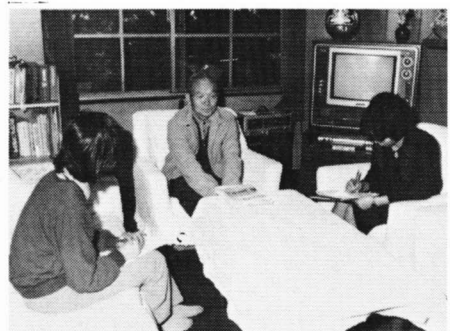
みなさんは同じ悼みを胸にかえ春・秋の彼岸には、静岡の護国神社に参拝します。そして、お盆には、万灯みたま祭といって、ちようちんをあげ祈禱していただきます。今年からは会員がより多く参加できるように時間を考えて、夕方五時出発し七時半には帰宅という方法をとりました。

その他、年度初めの総会や忠魂塔の清掃を富士川地区当番制で年四回行っています。

戦後三十九年、われわれモニターにははかりきれないものがあります。遺族の方々にとっては、長くつらい日もあったのではないかと察いたします。小林さんも弟さんを十八歳でなくされたお話に、しばし目頭をおさえられていました。

最後に小林さんは「会としては今までの行事は毎年続けていきたい。そのためには会員相互の結束をたかめ、後継者をつくって英霊をまつり、国を、大和民族を守っていきたい」と力強く話されていました。

(広報モニター 常盤孝子)



小林会長さんにインタビューする
広報モニター

師走の小雨で肌寒い日となりました6日(木)、私たち広報モニターは、「遺族会」の会長小林さん(富士見町)にお話をうかがいました。小林さんは、今年二月に、前会長の今井藤雄さん(本通り一)から会長を受けつがれ、それまでは副会長で活躍されていました。

まず遺族会とは、家族に戦死者をもっている人たちの集まりで、決して特殊団体ではないということでした。

同会は、戦後まもなく発足し、会の運営を円滑にするために、

秋には靖国神社参拝があります。毎年一泊で行ってきましたが、去年からは日帰りで行うようにしたそうです。八十人ぐらゐの参加者がありましたが、なるべく多くの人に持っていただきたいと話していました。

戦後三十九年を経過すると遺族の中には、年齢が高くなってきているため、行事になかなか参加しにくいという悩みが出てきているようです。

▼社会教育(地域学習の課題)▲ 情報過多の中で

世はまさに情報化社会です。ありとあらゆる情報が時や場を問わず、好むと好まざるにかかわらず、私たちの周囲にとび込んできます。近くはスーパーのチラシから、超高度な先端技術の知識にいたるまで洪水の如くもたらされています。

私たちはこの豊富な情報の中で、それを暮しの中に生かせる術はありません。それによって広げられる私たちの知識、あるいは生活文化の向上、また、技術の革新は大変なものなのです。

しかも、これらの情報を提供する側は受ける側の状態を適確につかみ、あらゆる技術を駆使して提供しています。ところが、受ける側の努力はどうかというところ、かつして最善の努力を払っているとはいえないのが現状だと思っております。

例えば、これだけ豊富な情報が提供されているのに、現実に人々の生活に生かされて

いるのはほんの少量にすぎないのです。ほとんどは捨てられてあるいは眠っているのです。その上、情報処理の方法も一般化してないため、情報が機能してないのです。情報が情報になり得た時、始めて情報となる」といわれていますが、闇に消えた情報は情報ではなく、単なるゴミだったかもしれません。今一つ考えなくてはならないのは、ニューメディアとかV・A・Nとか一般にはまだまだ普及するに時間はまだまだ必要のもの、新聞紙上などで言葉の方が先行してしまっている状況があるということです。

いずれも提供、受け入れ双方の問題がありますが、私たちは価値の多様化の時代に加えて情報過多の中で、もたらされる情報を、選択し、処理し、考察し、生かしていかねば、人間が情報に振りまわされて、我を忘れてしまうかもしれないことを恐れるわけです。情報から情報を生み出す努力が今後ますます必要となってくると思います。

家族で話し合おう

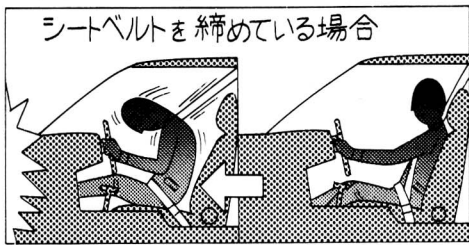
シートベルトと効用

シートベルトは交通事故のとき、致命傷になりやすい頭や胸を損傷から守ってくれます。「衝突事故に遭っても腕や足でふんばるからシートベルトなんていらぬい」などという人はいませんか。実は腕や足で耐えられる衝撃は、体重の二〜三倍が限度です。

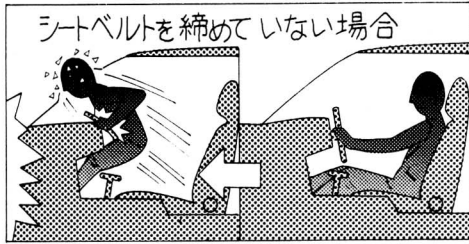
では時速二十キロで固定壁にぶつかったときの衝撃はどのくらいかという、体重の六倍以上の力が加わるのです。わずかに時速二十キロのスピードでも腕や足だけでは耐えられず、車に乗っている人の体はハンドルやフロントガラスにぶつかってし

まいます。ところが、シートベルトをしていないと体は座席に固定され、ハンドルなどにぶつかってケガをするのを防ぐことができません。

乗車中に死亡した人たちが、もしシートベルトをしていたら、十人のうち五人は助かったであろうといわれています。あなたの命を守るためには、まずシートベルトを締めることです。



シートベルトを締めている場合



シートベルトを締めていない場合

11月の交通事故	
人身事故	4件(5)
物損事故	3件(6)
合計	7件(11)
富士川身延線	3件(2)
国道一号線	2件(5)
町道	1件(3)
県道	0件(1)
その他	1件(0)

()は昨年

星の子



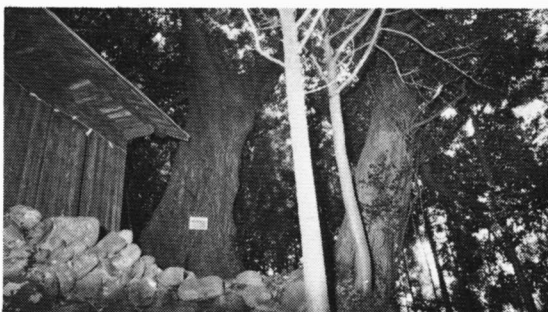
まちの指定文化財(樹)

富豊七神社の椎

天然記念物 富豊七神社の椎
昭和57年3月13日指定
指定番号 第12号
管理者 粒良野区
樹高15m
根回り7m 目通り5.5m

粒良野区は、中世からの伝承が数多く残されていることから古くから発達したといわれ、この椎も、その氏神の神木として大切に守られてきました。

この椎はこの地方の原植生といわれ、町の常緑広葉樹林の主体である「ヤブコウジスタジ一群集」の中心樹であり、残存する椎の中では、最も大きな木で樹勢もよく、当町の植生を研究する上で大変貴重な木です。



戸籍の窓

昭和59・11・15 30届出分

(敬称略)

おめでた

区名	氏名	保護者	続柄
相生町	齋藤志帆	弘幸	三女
〃	谷津倉里美	進	三女
〃	若月栄樹	正	二男
旭町	太田桂佑	達也	長男
堺町	久保田哲隆	雅紀	二男
新町	大石有輝	安英	長男
小池	松本実津紀	光秋	二男
幸町	佐藤里恵	明	長女
〃	前田昇太郎	恒美	長男
〃	井上侑果	茂樹	長女
東町一	吉田真由加	康夫	長女
〃	石川恵二郎	文雄	長男
日の出町	森ゆき絵	佑司	二女
八幡町	望月麻衣	康雄	長女

区名	氏名	年齢
清水町	深澤麻衣	正紀
〃	長女	

お母さんの知恵袋

プラスチック容器の転用はさけましょう

食器の容器包装の中で、最近特にプラスチックが多く用いられています。軽くて丈夫で、くさらなくて非常に重宝です。以前、可塑剤使用による安全性が問題となったことがありましたが、最近の製品は規則も厳しいので、不良品はほとんどありませんが、石油製品から合成する際、やはり色々の添加剤を使用していますので、表示を見て使用目的にあった使い方を心得るべきです。酸性、アルカリ性の強い食品の長期保存容器としては避けた方がよく、また、ベンジン、シンナー、アルコールなどにとけやすいものがあるので注意しなければなりません。奈良漬に使用して穴があいた例などもあります。また、非常食品用のものは、添加剤などに安全でないものが使われることもあるし、食品用であっても用途にあつた基準によつて作られているので、他の食品の保存用に転用するのは、避けた方がよいでしょう。

十一月詠草 (天野寛選)

南町一 上野みつ子
葡萄畑に働く僧に断りて国宝在す堂に入りたり

本通一 望月 録

裏木戸のすき間より見る猫じやらしなほ揺れ止まず風通るらし

舟山町 望月 八代

籠の中に短くなりし羽ひろげ孔雀は鳴けりよろめきにつつ

小池 土橋 節子

山深き紅葉たけなわの梅ヶ島午後一時半すでに暮れ初む

小池 佐藤 ちよ

わが足の癖のつきたる下駄はきて幼は歩む庭にころびつつ

坂 下川口 久代

霧が峰をバスはめぐれど花はなかくかほそき岩間にそよげり

相生町 藤沼 満

久の雨に小松葉息づきいきおえる葉の上に散る柿の紅葉は

本通四 高橋 勝治

同窓生堀江喜一遊びに来りうれしくなりて話花咲く

南町一 佐野 節子

三十五年勤続記念に贈られし置時計すでに時を刻まず

本通三 桐谷 静子

秋の日はたちまち暮れて子等の折つボールは白く宙にとび交う

一里塚



コンピュータ利用技術の高度化とデータ通信回線利用の普及により、私達は今、情報処理を主体とした産業革命の真只中にある。今までは、夢のようだったことが次々と実用化されつつある。VAN、CATV、キャプテンなどが、その代表例である。これらは、かつて、電話やテレビが普及したよりも、急速に普及するであろう。そして近

い将来、テレトピア静岡の構想にも、位置づけられているように、行政の分野においても、活用されはじめることだろう。しかし、これらのシステムにも幾つかの問題点がある。システムの安全対策、プライバシーの保護、高度情報化社会での職員の対応などの問題である。私達には、それらのシステムを活かす技術及び多種多様な情報から必要なものを選択し、行政に反映させ、解決していく能力が要求される。近い将来、到来するであろう時代に、疎外されることのないよう努めていき

たいものである。(Fu Ji Ta Ni)
善意銀行へ寄託
S 59・11・15 12・3

労力奉仕

富士川町第一建築太子会
五万円 宇佐美康之(清水町)
十万円 木下 保子(幸町)

あとがき

昭和58年9月号から掲載し、みなさんから好評を得ていました「ふるさと探訪石仏巡礼」は11月号をもって終了しました。病床で長期間執筆し寄稿してくれました芦川守正氏に厚くお礼申し上げます。